

第 1 問

【解答】

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	当座預金 手形売却損	796,000 4,000	受取手形	800,000
2	当座預金 支払手数料	3,000,000 2,000	普通預金 現金	3,000,000 2,000
3	普通預金	50,000	償却債権取立益	50,000
4	仕入	1,210,000	買掛金 現金	1,200,000 10,000
5	租税公課	60,000	現金	60,000

1. 手形の割引の仕訳を問う問題である。

新版日商簿記 3 級テキスト P.97 参照

受取手形 (資産)

・得意先より受け取った約束手形¥800,000 から、約束手形勘定の借方に ¥ 800,000 が記入されていることがわかる。

800,000

・手形の割引は手形の売却と考えるので、割り引いたとき手形債権 (受取手形) が消滅する。

(貸) 受取手形 800,000

・割引料は手形売却損勘定 (費用) で処理する。

(借) 手形売却損 4,000

・残額を当座預金に振り込まれた。

(借) 当座預金 796,000

2. 普通預金から当座預金に振り替えたときの仕訳を問う問題である。

・振り替えたことにより、普通預金は減少し、当座預金は増加する。

(借) 当座預金 3,000,000 (貸) 普通預金 3,000,000

・小切手帳の交付にともなう手数料は支払手数料勘定 (費用) で処理する。

(借) 支払手数料 2,000 (貸) 現金 30,000

3. 前期に貸倒れとして処理した売掛金が、当期に回収されたときの仕訳を問う問題である。

新版日商簿記 3 級テキスト P.150 参照

・前期に貸倒れになった売掛金が、当期に回収されたときは、償却債権取立益勘定 (収益) で処理する。

(借) 普通預金 3,000,000 (貸) 償却債権取立益 50,000

※・売掛金が回収されたからといって、(貸) 売掛金としないように注意する。

4. 自動車販売業者が中古自動車を購入した時の仕訳を問う問題である。

- ・自動車販売業者にとっては、(中古) 自動車の売買は主たる営業取引であり、商品の売買に相当する。そこで、中古自動車の購入は仕入勘定で処理する。

(借) 仕 入 1,200,000

- ・同様の理由で、貸方は買掛金勘定で処理することに注意する。

(貸) 買 掛 金 1,200,000

- ・引取運送費¥10,000 は仕入原価に加える。

5. 固定資産税を納付したときの仕訳を問う問題である。

新版日商簿記 3 級テキスト P.121 参照

- ・固定資産税を納付した。

(借) 租 税 公 課 60,000

- ・現金で納付した。

(貸) 現 金 100,000

※固定資産税の納税通知書を受け取ったときに、(借) 租税公課×× (貸) 未払税金××と仕訳している場合は、借方は未払税金 (実務では未払金で仕訳することもある) となる。したがって、借方は未払金も正解となる。

**第 2 問**

取引にもとづいて、当座預金勘定と当座借越勘定に必要な記入を行うとともに、当座預金勘定の月末残高を問う問題である。

新版日商簿記 3 級テキスト P.64 参照

**【解答】**

当 座 預 金

1 / 1	前月繰越	700,000	1 / ( 4 ) ( 現 金 ) ( 200,000 )
( 1 8 )	( 売 上 ) ( 200,000 )		( 7 ) ( 仕 入 ) ( 250,000 )
( 2 5 )	( 売 掛 金 ) ( 450,000 )		( 1 3 ) ( 買 掛 金 ) ( 250,000 )
			( 2 7 ) ( 支 払 手 形 ) ( 300,000 )
			( 2 9 ) ( 水 道 光 熱 費 ) ( 30,000 )

当 座 借 越

1 / ( 1 8 ) ( 売 上 ) ( 150,000 )	1 / ( 1 3 ) ( 買 掛 金 ) ( 150,000 )
---------------------------------	-----------------------------------

1 月末日における当座預金勘定の残高     ¥ 320,000    

**【解説】** 取引を日付順に仕訳し、転記する。そのさい、仕訳のとなりに当座預金勘定の残高を記録すると間違いを少なくできる。なお、当座預金勘定の残高の（－）は当座借越高を示す。

			当座預金勘定の残高
1 月 1 日			700,000
1 月 4 日	(借) 現 金 200,000	(貸) 当座預金 200,000	500,000
7 日	(借) 仕 入 500,000	(貸) 当座預金 250,000	
		買 掛 金 250,000	250,000
1 3 日	(借) 買 掛 金 400,000	(貸) 当座預金 250,000	
		当座借越 150,000	－ 150,000
※当座借越がある状態で当座預金に預け入れたときの仕訳は、まず当座借越を返済し、残額を当座預金に入金したと考えて行う。			
1 8 日	(借) 当 座 借 越 150,000	(貸) 売 上 350,000	
	当 座 預 金 200,000		200,000
2 5 日	(借) 当 座 預 金 450,000	(貸) 売 掛 金 450,000	650,000
2 7 日	(借) 支 払 手 形 300,000	(貸) 当座預金 300,000	350,000
2 9 日	(借) 水 道 光 熱 費 30,000	(貸) 当座預金 30,000	<b>320,000</b> (1 月末の当座預金残高)

第 3 問 月初残高に月中取引高を加算し、12 月末残高を記入する試算表の作成を求める問題である。

【解答】

## 試算表

借 方			勘 定 科 目	貸 方		
12 月末残高	月中取引高	月初残高		月初残高	月中取引高	12 月末残高
589,000	261,000	536,000	現 金	208,000		
		3,000	現 金 過 不 足	3,000		
1,878,000	668,000	2,800,000	当 座 預 金	1,590,000		
210,000	180,000	300,000	受 取 手 形	270,000		
1,282,000	900,000	900,000	売 掛 金	518,000		
	8,000		貸 倒 引 当 金	20,000	12,000	
500,000		500,000	繰 越 商 品			
80,000	80,000	120,000	前 払 金	120,000		
	15,000		仮 払 金	15,000		
1,500,000		1,500,000	備 品			
			備品減価償却累計額	562,500	562,500	
	140,000		支 払 手 形	200,000	120,000	
	330,000		買 掛 金	800,000	1,020,000	
	500,000		借 入 金	1,500,000	1,000,000	
	200,000		前 受 金	200,000	110,000	
	100,000		仮 受 金	100,000		
	3,000		所 得 税 預 り 金	3,000	5,000	
			資 本 金	3,000,000	3,000,000	
	10,000		売 上	18,776,000	20,046,000	
15,100,000	930,000	14,200,000	仕 入	30,000		
3,100,000	300,000	2,800,000	給 料			
100,500	5,000	95,500	発 送 費			
90,000	14,000	76,000	旅 費 交 通 費			
960,000	80,000	880,000	支 払 家 賃			
131,000	15,000	116,000	通 信 費			
149,000	13,000	136,000	水 道 光 熱 費			
180,000		180,000	租 税 公 課			
6,000	2,000	4,000	手 形 売 却 損			
20,000	5,000	15,000	支 払 利 息			
25,875,500	4,759,000	25,161,500		25,161,500	25,875,500	

【解説】

解答手順

1. 1 2 月中の諸取引の仕訳を行う。

(1) 現金に関する取引

a. (借) 現 金	150,000	(貸) <del>当座預金</del>	<del>150,000</del>
b. (借) 現 金	110,000	(貸) 前 受 金	110,000
c. (借) 前 払 金	80,000	(貸) 現 金	80,000
d. (借) 仮 払 金	15,000	(貸) 現 金	15,000
e. (借) 発 送 費	2,000	(貸) 現 金	2,000
f. (借) 支 払 家 賃	80,000	(貸) 現 金	108,000
通 信 費	15,000		
水 道 光 熱 費	13,000		
g. (借) 所 得 税 預 り 金	3,000	(貸) 現 金	3,000
h. (借) 旅 費 交 通 費	14,000	(貸) 仮 払 金	15,000
現 金	1,000		

新版日商簿記3級テキスト P.113 参照

新版日商簿記3級テキスト P.111 参照

新版日商簿記3級テキスト P.113 参照

(2) 当座預金に関する取引

a. (借) 当 座 預 金	150,000	(貸) 受 取 手 形	150,000
b. (借) 当 座 預 金	400,000	(貸) 売 掛 金	400,000
c. (借) 当 座 預 金	118,000	(貸) 受 取 手 形	120,000
手 形 売 却 損	2,000		
d. (借) <del>現 金</del>	<del>150,000</del>	(貸) 当 座 預 金	150,000
e. (借) <del>仕 入</del>	<del>200,000</del>	(貸) 当 座 預 金	200,000
f. (借) 支 払 手 形	140,000	(貸) 当 座 預 金	140,000
g. (借) 買 掛 金	300,000	(貸) 当 座 預 金	300,000
h. (借) 借 入 金	500,000	(貸) 当 座 預 金	505,000
支 払 利 息	5,000		
i. (借) 給 料	300,000	(貸) 所 得 税 預 り 金	5,000
		当 座 預 金	295,000

新版日商簿記3級テキスト P.97 参照

新版日商簿記3級テキスト P.106 参照

新版日商簿記3級テキスト P.111 参照

(3) 仕入れに関する取引

a. (借) 仕 入	200,000	(貸) <del>当座預金</del>	<del>200,000</del>
b. (借) 仕 入	60,000	(貸) 支 払 手 形	60,000
c. (借) 仕 入	550,000	(貸) 買 掛 金	550,000
d. (借) 仕 入	120,000	(貸) 前 払 金	120,000
e. (借) 買 掛 金	30,000	(貸) 仕 入	30,000

新版日商簿記3級テキスト P.110 参照

(4) 売上げに関する取引

- |             |         |         |   |         |
|-------------|---------|---------|---|---------|
| a. (借) 受取手形 | 180,000 | (貸) 売   | 上 | 180,000 |
| b. (借) 前受金  | 200,000 | (貸) 売   | 上 | 200,000 |
| c. (借) 売掛金  | 900,000 | (貸) 売   | 上 | 900,000 |
| d. (借) 売上   | 10,000  | (貸) 売掛金 |   | 10,000  |

新版日商簿記 3 級テキスト P.110 参照

(5) その他の取引

- |              |         |           |  |         |
|--------------|---------|-----------|--|---------|
| a. (借) 発送費   | 3,000   | (貸) 現金過不足 |  | 3,000   |
| b. (借) 貸倒引当金 | 8,000   | (貸) 売掛金   |  | 8,000   |
| c. (借) 仮受金   | 100,000 | (貸) 売掛金   |  | 100,000 |

新版日商簿記 3 級テキスト P.150 参照

※ 二重仕訳の削除

(1) の a. と、(2) の d. は同じ取引である。

そこで、(1) は現金に関する取引であるから、(借) の現金を残し、(貸) 当座預金を削除する。

(2) は当座預金に関する取引であるから、(貸) の当座預金を残し、(借) 現金を削除する。

また、

(2) の e. と、(3) の a. は同じ取引である。

そこで、(2) は当座預金に関する取引であるから、(貸) の当座預金を残し、(借) 仕入を削除する。

(3) は仕入れに関する取引であるから、(借) の仕入を残し、(貸) 当座預金を削除する。

なお、単純に一方の仕訳をまるごと削除しても解答には影響はない。

第 4 問 文章の空欄を漢字で埋める問題である。

【解答】

(ア)	貸借対照表	(イ)	繰越	(ウ)	損益
(エ)	資本金	(オ)	振替		

【解説】 (ア) 新版日商簿記 3 級テキスト P.16 貸借対照表 参照

なお、一定時点の資産、負債および純資産の状態を財政状態という。

(イ) 新版日商簿記 3 級テキスト P.143 **POINT** 参照、P.180 **参考**

(ウ)・(エ) 新版日商簿記 3 級テキスト P.44 決算の手引き 参照

(オ) 新版日商簿記 3 級テキスト P.126 3 伝票制 参照

第 5 問 新版日商簿記 3 級テキスト P.178, 179 ①損益計算書の作成、②貸借対照表の作成 参照

【解答】

貸借対照表

平成 26 年 12 月 31 日

(単位：円)

現 金	( 580,000 )	支 払 手 形	( 400,000 )
当 座 預 金	( 2,775,000 )	買 掛 金	( 600,000 )
受 取 手 形 ( 650,000 )		借 入 金	( 2,000,000 )
貸 倒 引 当 金 ( 6,500 )	( 643,500 )	未 払 費 用	( 4,000 )
売 掛 金 ( 750,000 )		資 本 金	( 3,200,000 )
貸 倒 引 当 金 ( 7,500 )	( 742,500 )	当 期 純 ( 利 益 )	( 55,000 )
商 品	( 420,000 )		
消 耗 品	( 22,000 )		
前 払 費 用	( 36,000 )		
備 品	( 1,040,000 )		
	( 6,259,000 )		( 6,259,000 )

損益計算書

平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日

(単位：円)

売 上 原 価	( 12,450,000 )	売 上 高	( 17,000,000 )
給 料	( 2,800,000 )	受 取 手 数 料	( 30,000 )
( 貸倒引当金繰入 )	( 4,000 )		
( 減価償却費 )	( 260,000 )		
支 払 家 賃	( 900,000 )		
水 道 光 熱 費	( 240,000 )		
保 険 料	( 138,000 )		
通 信 費	( 96,000 )		
消 耗 品 費	( 53,000 )		
支 払 利 息	( 24,000 )		
雑 損	( 10,000 )		
当 期 純 ( 利 益 )	( 55,000 )		
	( 17,030,000 )		( 17,030,000 )



【解説】

(1) 決算整理前の総勘定元帳の資本金勘定および現金勘定の金額を求める **新版日商簿記 3 級テキスト P.58 参照**

- ・資本金…資本金勘定から求める  $¥3,800,000 - (¥150,000 + ¥150,000 + ¥300,000) = ¥3,200,000$
- ・資本金勘定の残高を計算したら、試算表等式にもとづいて現金勘定の残高 (X) を計算する。

資産	X + ¥2,725,000 + 650,000 + 800,000 - 10,000 + 370,000 + ¥1,300,000
	貸倒引当金
負債	¥400,000 + ¥600,000 + ¥2,000,000
資本	¥3,200,000
収益	¥17,000,000 + ¥30,000
費用	¥12,500,000 + ¥2,800,000 + ¥900,000 + ¥240,000 + ¥174,000 + ¥96,000 + ¥75,000 + ¥20,000

資産 + 費用 = 負債 + 資本 + 収益 の資本等式により現金 X の金額 ¥590,000 を求める。

(2) 決算整理事項

1. 現金過不足の処理

**新版日商簿記 3 級テキスト P.169 参照**

(借) 雑 損 10,000 (貸) 現 金 10,000

- ・決算日になって現金過不足が判明したときは、過不足額を雑損または雑益勘定で処理する。
- ・ここでは、現金の帳簿残高が ¥590,000、実際有高が ¥580,000 であるから、現金不足が ¥10,000 発生している。そこで、雑損勘定の借方と現金勘定の貸方に記入する。

2. 未処理取引の仕訳

(借) 当座預金 50,000 (貸) 売掛金 50,000

3. 貸倒引当金の設定

**新版日商簿記 3 級テキスト P.148 参照**

(借) 貸倒引当金繰入 4,000 (貸) 貸倒引当金 4,000  
－費用－ －受取手形・売掛金の評価勘定－

※ 貸倒引当金繰入額

受取手形期末残高 ¥650,000

売掛金期末残高 ¥750,000 ( 残高試算表 ¥800,000 - 決算整理事項等 2 ¥50,000 )

貸倒引当金繰入額  $(\frac{¥650,000}{\text{受取手形}} + \frac{¥750,000}{\text{売掛金}}) \times 1\% - ¥10,000 = ¥4,000$  貸倒引当金残高 (残高試算表)

4. 売上原価の計算

**新版日商簿記 3 級テキスト P.143 参照**

(借) 仕 入 370,000 (貸) 繰越商品 370,000 … 期首商品棚卸高 (総勘定元帳繰越商品)

(借) 繰越商品 420,000 (貸) 仕 入 420,000 … 期末商品棚卸高 (問題文に指示)

5. 減価償却費の計上 (定額法・直接法)

**新版日商簿記 3 級テキスト P.154 参照**

(借) 減価償却費 260,000 (貸) 備 品 260,000  
－費用－

※減価償却費の計算 直接法で計算することに注意する。

この備品は平成 25 年の期首に取得しているため、すでに一度だけ減価償却が行われており、帳簿残高の ¥1,300,000 は、取得原価からすでに行われた減価償却費を差し引いた金額 (未償却

残高) である。

したがって、帳簿残高の¥1,300,000 を残りの耐用年数 (5 年) で割ることによって、当期の減価償却費を求める。

$$\text{減価償却費} = \text{帳簿価額} \div \text{残りの耐用年数} = 1,300,000 \div 5 = \text{¥260,000}$$

6. 消耗品費勘定の整理

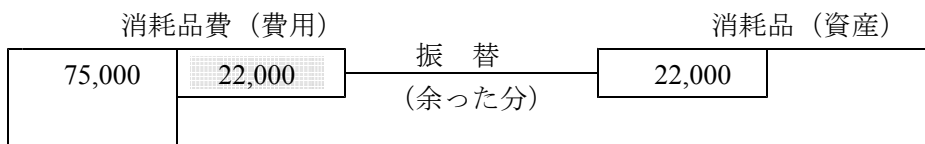
新版日商簿記 3 級テキスト P.162 参照

(借) 消耗品 22,000 (貸) 消耗品費 22,000  
 -資産- -費用-

**確認** 消耗品については次の二つの会計処理法がある。

	購入したとき消耗品費勘定で処理する方法	購入したとき消耗品勘定で処理する方法
購入時	消耗品費 ×× 現金預金 ×× -費用-	消耗品 ×× 現金預金 ×× -資産-
決算日	未使用高 ↓ 消耗品 ×× 消耗品費 ×× -資産-	使用高 ↓ 消耗品費 ×× 消耗品 ×× -費用-

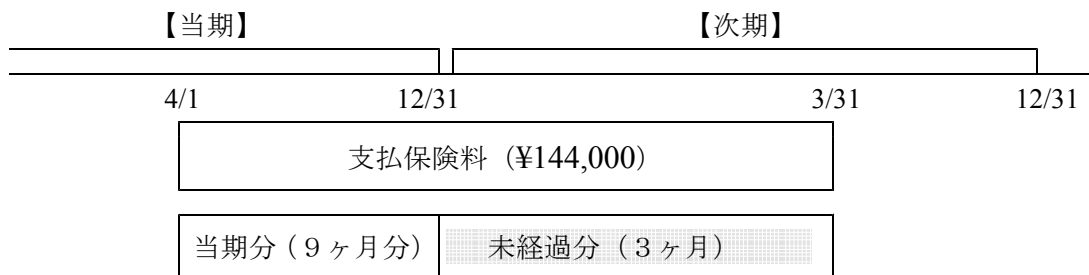
※この問題では、決算整理前の総勘定元帳の各勘定のなかに消耗品費勘定があることから、購入したとき消耗品費勘定 (費用) で処理していることがわかる。そこで、当期未使用高を消耗品費勘定 (費用) から消耗品勘定 (資産) に振り替える。



7. 前払保険料の計上

新版日商簿記 3 級テキスト P.151 参照

(借) 前払保険料 36,000 (貸) 保険料 36,000  
 -資産-



※ 未経過 (前払) 分を当期の保険料から差し引くとともに、次期に繰り延べるために前払保険料という資産の勘定に振り替える。

$$\text{前払保険料} = \text{支払保険料} \times \frac{\text{3ヶ月 (前払分)}}{\text{12ヶ月}} = 144,000 \times \frac{3}{12} = \text{¥36,000}$$

前払保険料勘定が資産であることをしっかりと理解する。なお、前払保険料は貸借対照表には前払費用 (資産) として記載する。

8. 未払利息の計上

(借) 支払利息 4,000 (貸) 未払利息 4,000  
 -負債-

※ 11月1日から決算日までの利息が未払である。そこで、未払額を当期の費用として支払利息勘定に計上するとともに、未払利息という負債の勘定を設けてその貸方に記入する。



$$\text{未払利息の計算} \quad ¥2,000,000 \times 0.012 \times \frac{2 \text{ヶ月}}{12 \text{ヶ月}} = ¥4,000$$

※ 未払利息勘定が負債であることをしっかりと理解する。なお、未払利息は貸借対照表には未払費用 (負債) として記載する。

※貸借対照表・損益計算書作成上の POINT

- それぞれの勘定が、資産なのか、負債なのか、費用なのか正しく理解する。

資産…前払費用、消耗品

負債…未払費用

費用…売上原価、減価償却費

- 繰越商品勘定の残高は B/S では商品として記載される。

貸倒引当金は受取手形および売掛金勘定からそれぞれ控除する形で B/S に記載される。

仕入勘定の残高は P/L では売上原価として記載される。

売上勘定の残高は P/L では売上高として記載される。

前払保険料は前払費用、未払利息は未払費用として B/S に記載される。